



2011年度上半期 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員が、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として、また、オフィス業務や事業活動として取り組んでいる環境保全活動について、各社資料を基にとりまとめた。また、3月11日の東日本大震災後、会員各社で、事業所における電力不足への対応、復興に当たって行っている持続可能な社会構築に向けた支援等について、幾つかの事例をとりまとめた。

1. 東日本大震災への対応

(1) 復興助成

三井物産 三井物産環境基金 東日本大震災復興助成

2011年4月27日、三井物産は、三井物産環境基金 東日本大震災 復興助成の案件募集を開始した。同基金は2005年に立ち上げ、地球環境問題に取り組むNPO等の活動、大学等の研究に対して寄付を行っている。復興助成は、緊急性の高さから5、6、7月末の計3回募集を行い、決定した案件から順次助成を行っており、岩手県住田町における太陽熱温水器設置事業「つながり・ぬくもりプロジェクト」など被災地における持続可能な社会の構築に資する活動を中心に、生態系、表土、森林の保全など応募総数631件から、67件の活動、研究に対して総額約8億5,700万円の助成を決定した。2011年度下半期も、復興助成および従来の環境分野への助成の募集を行う予定であり、震災によって発生したさまざまな環境問題の改善、解決等に資する取り

組みとしていきたい。

(2) 節電対策

阪和興業 夏季節電対策

東京では2011年5月9日－9月30日、大阪では7月1日－9月22日、東京電力および関西電力管内の事業所および関係会社において、夏季の電力不足に対し、ピーク時の電力使用を削減するため節電対策を行った。事務所内照明の間引き、未使用時の小まめな消灯、広告塔の終日消灯など照明の節電、事務機器の節電モード設定や使用制限、室内温度管理など空調の節電等を行い、各部門の環境責任者が実施状況を確認した。また、東京電力管内の関係会社には、電力対策自主行動計画策定を依頼した。

この結果、東京本社のピーク時使用電力は前年比23%減、大阪本社は同20%減となり、目標を達成し、また、社内の節電意識も高まった。

社員からは「初めは戸惑ったが、慣れてく

ると明る過ぎるところや電気がつけっぱなしの部屋を見ると逆に気になるようになった」等の感想があった。冬季の電力不足も予想されるため、一部の対策は継続していく。

日立ハイテクノロジーズ グリーンカーテンプロジェクト

2011年6-7月、日立ハイテクグループにおいて、希望社員65人へ、計約200粒のゴーヤの種を配布し、各家庭でゴーヤを栽培し、また、那珂、埼玉、湘南の各地区の事業所で、苗木190株を栽培した。つる性植物のゴーヤを建物の窓や壁に沿って栽培し、グリーンカーテンを作り、植物の蒸散作用、太陽光の遮断効果により夏季の節電に取り組んだ。

今夏の節電対策の一環として政府もグリーンカーテンを推進したが、当プロジェクトは日立グループの一部企業で2006年度から行われていた取り組みを、2011年度は日立グループ全体に拡大したものであり、日立グループの300超の事業拠点に計1万株の苗木を配布し、また希望する社員宅に計1万粒の



グリーンカーテンプロジェクト(日立ハイテクノロジーズ提供)

種を配布した。

参加者からは「ゴーヤの葉が日差しを遮り室温の上昇が緩和された」「見た目が涼やか」「ゴーヤのたくましい生命力に感激した」等の感想があった。9月には多くの種を収穫することができ、今後も継続していきたい。

ユアサ商事 使用電力リアルタイム表示

2011年7月1日から、東京の本社ビル(本館、別館)に1時間ごとの電力ピークのリアルタイム表示システムを導入し、ウェブサイトで公開している。夏季の電力不足への対応のため、使用電力の可視化による節電を図った。また、ガス吸収式冷温水発生機、デシカント(除湿空調システム)、Low-E複層ガラスの導入など空調の節電、LED照明1,000本設置など照明の節電、事務機器の節電等により、7-8月の電力使用は前年比40%減、ピーク時使用電力は同41%減となった。

社員からは「電力の可視化により、今まで以上に節電を心掛け、不在時のパソコンの電源オフを意識するようになった」など意識変化が感じられた。

2. 環境マネジメント

住友商事 中国の環境政策、化学物質管理規制に関するセミナー

2011年7月15日、東京本社で、中国の環境政策・規制の全体像と化学物質管理規制について、社外の専門家による説明会を開催し、グループ会社の中国取引の実務担当者を中心に、東京本社から78人、テレビ中継により国内9拠点から26人の役職員が参加した。

第12次5ヵ年計画がスタートした中国における環境政策の、今後の動向、事業活動を

進めていく上で注意すべき動き、実務上の具体的な課題等についても説明を受け、現地の法規制の順守を推進した。

参加者からは「中国の環境行政、環境関連法規制の現状、動向について理解を深めることができた」等の感想があった。

3. 環境問題への理解促進

(1) 一般対象

岩谷産業 サイエンス・フェスタ2011

2011年8月20 - 21日、「青少年のための科学の祭典」大阪大会実行委員会等の主催により、大阪ハービスホールで開催された青少年のための科学の祭典2011大阪大会サイエンス・フェスタに特別協賛企業として参加した。

サイエンス・フェスタは、子供たちの理科離れを食い止めようと1992年に始められ、今回は高校、大学等から約80団体が出展し、延べ約2万5,000人が来場した。岩谷産業は2006年から協賛し、今回は、「作ろう！未来のエネルギー ～水素で電気を作ってみよう～」をテーマに、東日本大震災の影響で電力不足が懸念される中、自転車をこいで発電し、電気の貯蔵媒体としての水素について学んだ。

参加した子供たちからは「水素は持ち運びができて便利」「自転車こぎは疲れたけれど、たくさん作れば水素だけで家を動かせるようになると思った」等の感想があった。

(2) 社員対象

伊藤忠丸紅鉄鋼 都心の水辺でエコツアー

2011年6月7、16、22、28日、NPO法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部の協力により、4月に開設された日本橋船着場から、日本橋

川、隅田川にかけてのエコボート（電気船）による水上ツアーを開催し、社員、派遣社員等計17人が参加した。

毎年6月のMISI環境月間の事業の一環として、身近な地域の水を中心とする街づくり、川の歴史、水の大切さについて学ぶ企画として2009年度から実施しており、参加者からは「普段見られない川面から眺める都心の様子が非常に興味深かった」「川の歴史、川が持つ意味について説明を受け、勉強になった」等の感想があった。

4. 地域における環境保全活動

(1) 主催

メタルワン 第10回メタルワン大阪支社環境ボランティア

2011年6月11日、社員・グループ会社社員とその家族18人が参加し、滋賀県守山市びわこ地球市民の森で下草刈りを行った。

本事業は、企業理念にうたわれる地球市民を具現化する活動と位置付けられ、自然環境の復元、人間社会と自然環境の共生、環境教育等の社会・環境貢献活動を実現するものとして展開している。

参加者の意識変革を通じて間接的にも、地球環境の維持・改善に寄与したと考えており、今後も活動を拡大させていきたい。参加者からは「苗木の植樹から始まる森づくりは息の長い活動であることを実感した」「地球環境改善に役立ち気持ちよかった」「普段とは異なる達成感を得て、環境問題を考えるきっかけとなった」等の感想があった。

丸紅 第3回富士山清掃活動

2011年8月27日、NPO法人富士山クラブ

との共催により、富士山麓標高900mの枯沢周辺で、グループ会社社員・家族や中国からの留学生等計55人が、不法投棄された冷蔵庫や大型テレビ、ガラス、タイルの破片等トラック1台分のゴミを回収した。

本活動は、自然環境保護活動の一環として、富士山の環境問題の現状を認識するとともに、留学生支援企業協力推進協会の留学生との交流を深める目的で2009年度より実施している。参加者からは「想像以上の量の粗大ゴミが不法投棄されていることに驚いたが、参加者が力を合わせて回収し、達成感を感じることができた」等の感想があった。

三菱商事 三菱商事生態援助林プロジェクト

2011年9月3日、中国河北省盧龍県で、三菱商事生態援助林プロジェクトの完了式典と、地元小学生とのクルミの収穫ボランティア活動を行い、社員およびその家族40人が参加した。中国全土で緑化活動を推進している中国緑化基金会との協働で2006年からクルミの苗木を植え、緑化を進めるとともに、収穫したクルミの実からの収益による生産の拡大、地元小学校のインフラ整備を行ってきた。今後、河北省山海関でサクランボの生態援助林プロジェクトを実施していく。

参加した社員からは「実をつけた光景に達成感を感じ、環境保全・社会貢献活動に対する意識が深まった」「企業の環境保全・社会貢献活動を現地の方々等に見てもらう機会となった」「長く続けてほしい」等の感想があった。

双日 双日グループ森林保全活動

2011年9月10日、東京都日野市 東豊田緑

地保全地域で、社員・グループ会社社員とその家族31人が参加し、NPO法人花咲き村の指導の下、下草刈りや間伐等を行った。

双日は2010年度から、東京都が推進する「東京グリーンシップ・アクション」に参加し、グループ森林保全活動を行っている。本活動を通じて直接的に生物多様性保全に貢献するとともに、役職員一人一人がCSRや環境保全について考える機会と捉えている。

参加者からは「良い汗をかき、楽しく1日を過ごすことができた」「達成感を感じることができた」「また機会があればぜひ参加したい」等の感想があった。

伊藤忠商事 東京港野鳥公園環境保全活動

2011年9月11日、東京港野鳥公園で、日本の大学で学ぶ留学生52人と社員6人が、竹の防潮柵づくりなど干潟の整備や、海岸のゴミ拾いを行った。創業150周年記念事業の一環として、2009年に伊藤忠奨学金制度を設立して留学生を支援しているが、環境保全の重要性への認識を深めてもらうため、伊藤忠商事の環境保全ボランティア活動への参加を促している。同10日には東京本社で講義も行い、企業の環境・CSR活動を学んでもらう良い機会となった。

暑さの厳しい中での作業であったが、参加した留学生からは「干潟の土やカニ等が波で沖に流されるのを防ぐための防潮柵の役割について認識した」等の感想があった。

(2) 協力

豊田通商「ふれあいの森」森づくり

2011年6月4日、大阪府四条畷市下田原「ふれあいの森」で、JR西労組、NGOオイスカ



「ふれあいの森」森づくり（豊田通商提供）



第41回名橋「日本橋」橋洗い（長瀬産業提供）

が主催する、杉、ヒノキの間伐、広葉樹の植栽等の森づくりに、社員8人が参加した。

JR西労組、オイスカは2007年より、大阪府アドプトフォレスト制度を活用し、地球温暖化防止、生物多様性保全に貢献するため、ふれあいの森9haのうち3haを対象に、森林整備活動を行ってきており、今回は41人が参加した。参加した社員からは、「森づくりは貴重な体験であった」「今後も森づくりの活動を通じて環境保全に貢献していきたい」等の感想があった。

長瀬産業 第41回名橋「日本橋」橋洗い

2011年7月31日、名橋「日本橋」保存会が主催して実施され、社員・グループ会社社員とその家族28人が参加した。

日本橋は、1603年に木造の橋が架けられた後、1911年に石造りとなり、2011年は架橋100周年に当たる。近隣企業や町内会等から1,500人超が参加し、日本橋の美化、保存のため、デッキブラシ等で橋を洗い、水質浄化、自然生態系の回復のため、日本橋川にEM（Effective Microorganisms）団子を投入した。社員からは「美化に資する子供たち

の楽しい思い出になった」等の感想があった。

5. 事業活動を通じた環境貢献

興和 テキスタイル・エクスチェンジ・カンファレンス2011

2011年9月18 - 20日、環境に配慮した持続可能な繊維製品を推進する国際的非営利組織 テキスタイル・エクスチェンジ（TE）の主催により、スペイン・バルセロナで開催された「カンファレンス2011」に、興和は理事として出席した。

興和は、有機栽培綿花を使い、国際認証（GOTS）を持つ工場において、環境に配慮した染料・加工助剤のみを使用して生産されたオーガニック繊維製品を販売しており、2005年からTEの活動を支援している。

今回のカンファレンスは、水資源やエネルギー、環境に配慮したバリューチェーンの構築等をテーマに、会員相互の意見交換、提案の場として開催され、36ヵ国から総勢294人の繊維関係の生産・流通・小売事業者が参加し、今後のエコ繊維製品の市場拡大への認識を共有した。今後もTEの活動を支援し、環境に配慮した繊維製品の普及に努めていく。

